

K-ライン

秋田県立栗田支援学校

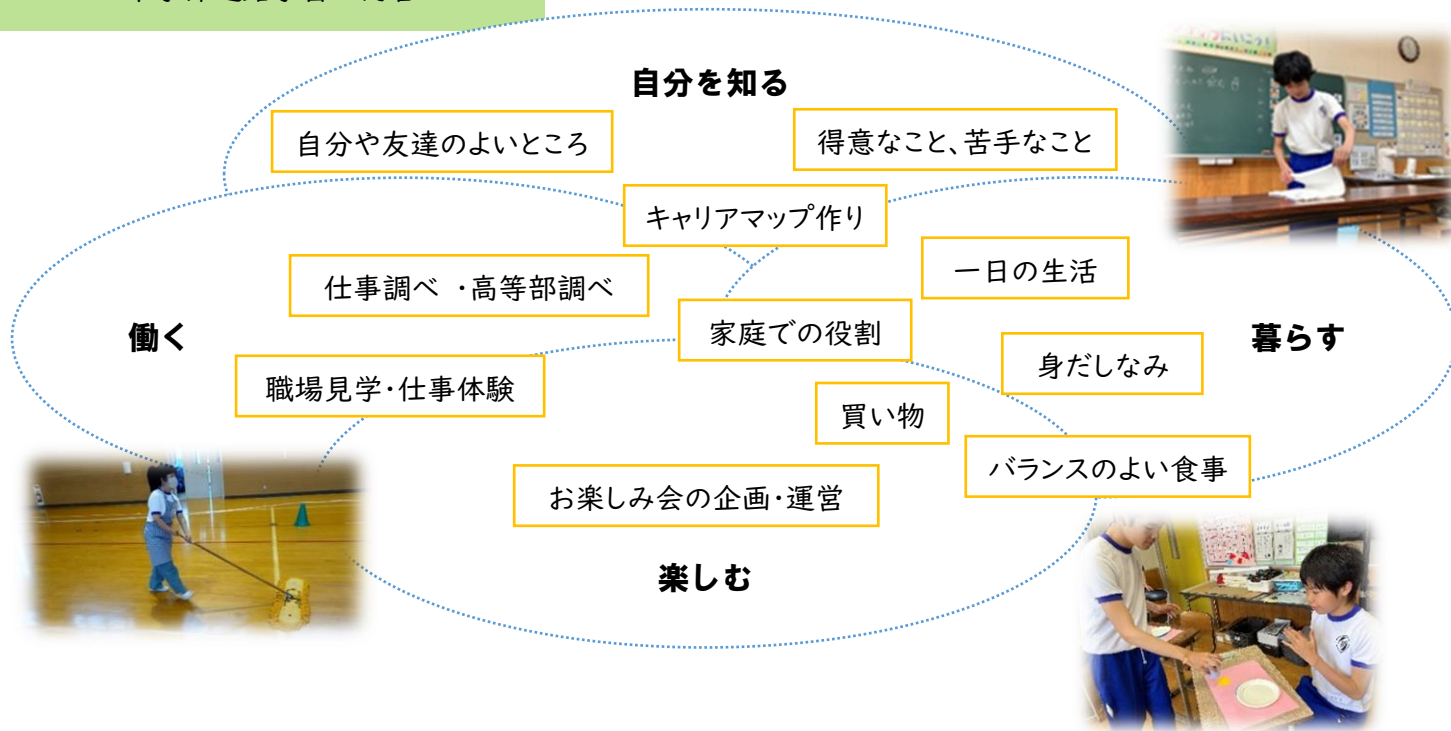
地域支援通信

令和7年度 第4号

令和7年11月17日発行

今回のK-ラインでは、中学部の取組から「進路学習」を御紹介します。中学部では、生活単元学習の中で週に2時間「進路学習」を行っており、自分を知ることや働くこと、暮らすこと、楽しむことについて、次のような学習に取り組んでいます。

中学部進路学習の内容



例として、中学部2年生の仕事体験の学習について紹介します。

中2「仕事体験～もっと知ろう！仕事、自分～」

生徒の実態



- ・友達同士の会話を楽しむ。
 - ・自分の考えに自信がもてず、発言したり行動したりすることに消極的な面がある。
 - ・見たり経験したりすることで感想や意見を話することができる。
- 高等部の校内実習を見学したときの感想
- 「難しそう」「自分にできるかな」「やってみたい」

学年の職員で話し合い、様々な視点から生徒の実態を捉えます。

考えられる背景



- ・人と関わるのが好き。
- ・興味・関心の幅が狭い。(経験不足も要因?)
- ・知らない人や知らないことへの不安感が強い。
- ・不安を解消することで主体的に活動できる。
- ・働くことや大人になることに憧れがある。

単元の目標

見学や体験を通して働くうえで大切なことに気付く。

仕事や働くことに関心を持ち、自分がやりたいことを考える。

授業計画（総時数 12 時間）

< 知 る > 見 学…本校高等部総合サービス科（家政、福祉、流通サービス）

話し合い…知っている仕事や興味のある仕事について

< 体験する > ①接客～喫茶（水の提供）

②掃除～スクイージーでの窓拭き、モップでの床掃除

③介護～車椅子の介助

< 振り返る > 体験を通して分かったことや感じたこと



授業の一例

「介護～車椅子の介助」

- ・車椅子の各部分の名称や扱い方を知る。
- ・友達と交替で車椅子に乗り、介助する側とされる側の立場を体験する。
- ・乗降の仕方、曲がり角や段差などの進み方を話し合う。
- ・体験の様子の動画を見て感想を出し合い、振り返る。



段差があるときは後ろ向きにすると進みやすいね

進むときに「進みます」と言われたら安心だったよ



☆経験を繰り返すうちに、車椅子操作のコツをつかみ、自分たちで考えて操作するようになりました。
☆振り返りでは、体験で気付いたことについて自信をもって発言する姿がありました。

授業づくりで大切にしたいこと

- ・体験を通して生徒の気付きや考えが生まれるような教材研究
（車椅子操作で大切な部分にシールを貼る、操作のコツに気付くような場面設定、動画やチェック表を用いた振り返り等）
- ・体験の振り返りや生徒の発言等を記録に残して積み重ねること
- ・体験を通して勤労観（役に立ててうれしい、誰かのために何かをすることが楽しい）を育むこと
友達同士や身近な教師にとどまらず、日頃関わりの少ない相手（他学部の職員や管理職など）を活用するのも有効な方法
⇒相手がどう感じているかを考える想像力を鍛え、そのうえで自分がどうしたらよいか考えられるようになることが大切



秋田県立栗田支援学校

TEL：018-828-1162

FAX：018-828-4720

〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町 10-10

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp>

メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp



本校HP

教頭：齊藤 理香 教育専門監：牧野 幸枝 地域支援部：照井 真紀子

特別支援教育アドバイザー：田口 睦子（秋田市教育研究所 TEL018-865-2530）